

告 辞

夏が去り、風にそよぐ木々の葉に秋の訪れを感じさせます本日、ここに関係各位のご臨席のもと、佛教大学通信教育課程 第22回後期大学院学位記 第66回後期卒業証書授与式、通学課程 大学院学位記 第70回後期卒業証書授与式を挙げていただけますことは、大変な喜びであります。卒業生、修了生の皆さん、誠におめでとうございます。皆さんの卒業、修了を、佛教大学教職員を代表して、心からお祝い申し上げます。

皆さんが今日という日を迎えることができたのは、お一人お一人がコツコツと積み上げられたご努力が実ったことはもちろんですが、なにより、皆さんを温かく見守ってこられたご家族や保護者、友人の方々などのご支援があったからに他なりません。ご家族や保護者の皆様には、そのお力添えに心から敬意を表し、お喜びを申し上げます。

佛教大学はご存じのとおり、仏教精神を建学の理念としております。その仏教精神とは、本学においては、釈尊と法然上人に共通の生き方を指しています。それは眼の前に起こる現実をしっかりと見据え、自分のなすべきことをなすことに他なりません。法然上人の教えに「還愚」があります。それは、いろいろな問題を抱えている自分自身をしっかりと見つめ、本当の自分を認め、自分と向き合い、その自分に間違いなくできることを手に入れ、それをしっかりと携えて、着実に未来へ歩いていくことです。

さて、コロナ禍は私たちの生活を一変させました。せっかくの晴れの日、本日の卒業式も、マスクを着用し、感染対策に心を砕きつつ行なわねばなりません。世はポストコロナにシフトしていますが、慣れや惰性で馴染んでいくのではなく、原点に立ち返り、基本的な対策を確認して一日一日を歩いてゆくことが大切です。コロナ禍によって大切な人を喪われた方、罹患された方、いまだ療養中の方、また自然の猛威の中で台風や豪雨によって災害に遭われ、住むところを無くされ方、傷つき、命を落とされた方もあるでしょう。それらすべての方々には心からお見舞い申し上げます。私たちは、誰もがそのような状況に遭遇する可能性を持っています。決して他人事ではありません。だからこそ常に、悩み苦しむ人の存在に気付けるかが大切な点になると考えます。

このような厳しい状況でも、歩いていく力や智慧を与えてくれるのが仏教精神です。卒業生、修了生の皆さんは目の前に起こる現実をしっかりと見据え、それぞれが修得した専門性を発揮して自分のなすべきことをなし、「佛教大学人」として自信をもってこれからの人生を歩んでください。

世界に目を向ければ、さまざまな場所で今も戦火があり、人権が守られない悲しい状況も存在します。ロシアのウクライナ侵攻は、始まりから半年以上が過ぎても収まる気配はありません。本学は仏教精神に基づき、平和な世界の構築を求め、人類福祉の増進に資することを目的に、大学としてのすべての活動を続けて

きました。それゆえに、利己的な考えで、他者の命や尊厳を踏みにじるロシアの行いに断固として抗議し、即時停止と対話による一日も早い平和的な解決を強く求めています。人の命を脅かすことなく、一人一人の暮らしが守られる日が一刻も早く訪れ、平和な状態を取り戻すことを願って、引き続き私たちにできることを行っていかねばなりません。

皆さんは、佛教大学でさまざまな知見や技術、あるいは経験を積まれました。学友との出会いは一生の宝となり、過ごした時間は必ず役立ちます。また通信教育課程は孤独な学びであり、それに耐え、さまざまな制約の中で学習時間を確保し、それぞれ研究成果をまとめられましたことでしょう。それらの知見や技術、経験、学友、時間や忍耐力は、必ずや、混迷の続く世の中を生きていく上で、大きな糧となると信じています。自分の学びに自信を持ち、目の前の道を一步一步着実に歩んでください。皆さんの歩みを私たちはいつも応援しています。

本日で一旦は皆さんの学びが終了しますが、時代の変化はとても速く、新たな学びを必要とされる時も来るでしょう。変化する社会において力を発揮するには、考える力に磨きをかける必要があります、また学び直しが必要となります。皆さんの学びの場を私たちは、佛教大学に用意しています。もう一度学び直したいと考えたときや、悩んだり迷ったりしたときは、是非、佛教大学に帰ってきてください。教職員一同、皆さんの再訪をいつでもお待ちしております。

最後に、今後の皆さんのご健康とご活躍をお祈りし、告辞といたします。
本日は、おめでとうございます。

令和4年9月25日

佛教大学長 伊藤 真宏